

平成23年度
(平成22年度分)

事務事業評価票

C 定型・維持管理型 No. 1004005

I 事業の概要

通常評価

I-1 事業の概要

事務事業名	廃食用油燃料化事業（施設維持管理費）		所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設整備課
			(連絡先)	212-8500
	ホームページアドレス http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/soshiki/5-4-2-0-0_3.html		(評価票作成者)	施設整備課長 森田弘之
22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性 現状のまま継続	24予算額 (千円)	事務事業の内容 廃食用油を精製し、本市ごみ収集車及び市バスでの利用を図るために設置された廃食用油燃料化施設の維持管理を行う。
135,486	154,534		150,223	
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：日立造船（株）等 委託内容：各種機器の保守管理等		
	☒ 部分委託			
	☐ 部分補助等			
	☐ 全部委託			
	☐ 全部補助等			
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律			事務事業の性格 ☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業
				会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分		H20年度決算	H21年度決算	H 2 2 年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)		146,922	164,279	135,486	154,534	150,223
		需用費（原材料等）		75,233	86,399	79,659	92,936	92,894
		光熱水費		800	788	804	840	840
		通信運搬費		14,532	19,177	12,895	16,090	13,961
		その他		1,045	771	462	934	854
	①'	委託料	保守管理等	55,312	57,143	41,666	43,734	41,674
	②	委託料が事業費に占める割合（①' ÷ ①） (%)		37.6%	34.8%	30.8%	28.3%	27.7%
	③	人件費（24年度は見込） (千円)		60,973	50,819	52,199	52,199	53,868
		職員（課長級） (人)		0.90	0.40	0.27	0.27	0.28
		職員（課長補佐級、係長級） (人)		1.20	1.20	1.31	1.31	1.39
		職員（係員） (人)		4.40	4.00	4.36	4.36	4.45
		嘱託職員等人件費 (千円)						
	④	年間経費（①＋③） (千円)		207,895	215,098	187,685	206,733	204,091
	⑤	特定財源（市税等の一般財源以外） (千円)		10,252	13,108	13,245	13,077	12,124
		国庫・府支出金 (千円)						
受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)								
その他（ BDF供給に係る交通局負担金等 ） (千円)		10,252	13,108	13,245	13,077	12,124		
⑥	京都市年間負担経費（④－⑤） (千円)		197,643	201,990	174,440	193,656	191,967	
⑦	受益者負担率（受益者負担分÷④） (%)		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

平成23年度
(平成22年度分)

Ⅱ 評価結果

事業名 廃食用油燃料化事業（施設維持管理費）

Ⅱ-2 業績評価（Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価は「通常評価」のため省略）

A 効率性	No.	区 分	単位	H20年度	H21年度	H 2 2 年度	
	①	製造量		ℓ	1,521,590	1,560,716	1,405,761
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）		千円	207,895	215,098	187,685
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）		円/単位	137	138	134
	④	単位当たり経費変動率				+0.9%	-3.1%
	分 析				評価	変わらない	良くなった
（コスト変動の理由等） 平成 2 1 年度と比べ、平成 2 2 年度の経費が減少したため効率性が良くなった。 燃料配送に係る委託単価の減少や委託業務の一部見直し等により経費が減少したため、単位当たりの経費が減少した。							
B 市民満足度	<調査の有無>		<調査方法>		<調査時期>		
	□ 有 □ 無 ■ 該当しない						
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	<調査結果、現状分析等>						
C 環境保全 及び環境負荷軽減の要素	■ 環境	<現状分析、今後の方針等>					
	□ 関連	年間150万リットルのバイオディーゼル燃料を製造・利用することにより、約4,000トンの二酸化炭素削減に寄与している。今後もバイオディーゼル燃料の製造プロセスの省エネルギー化、省資源化に取り組むとともに、品質の安定化により更なる環境負荷の軽減に努める。					
	□ 一般						

平成23年度の実施状況

引き続き、省エネルギー化、省資源化を踏まえた適切な施設の運転・維持管理に努めた。

Ⅲ 今後の方向性

現状のまま継続	(今後の方向性の理由及び具体的な内容)
	今後も引き続き、施設の効率的な運転・維持管理に努めるとともに、高品質な燃料の安定した製造・供給を行っていく。